

平成28年度第2回厚岸町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成29年2月8日(水) 10時00分～11時40分

2 場 所 厚岸町役場庁舎2階庁議室

3 出席者

(構成員)

町 長	若狭	靖
教 育 長	酒井	裕之
教育委員	田辺	正保
教育委員	濱	秀利
教育委員	平良木	宣行
教育委員	森脇	直美

(事務局)

総務課

課 長	會田	周二
総務係長	水野	博嘉
主 任	岡村	健太朗

(教育委員会事務局)

管理課長	高橋	敏晴
管理課長補佐	渡部	貴志
指導室長	滝川	敦善
生涯学習課長	桂川	実
体育振興課長	高橋	政一

4 傍聴者 0人

5 内 容

○司会(総務課長)

ただいまから、平成28年度第2回厚岸町総合教育会議を開催いたします。  
始めに町長から御挨拶をいただきます。

○町長

皆さん、おはようございます。

本日は、2回目の厚岸町総合教育会議でございます。

教育長をはじめ各委員には、日頃から厚岸町教育行政に対しての御尽力心から感謝を申し上げます。

また、本日はお忙しいところ御出席いただきまして誠にありがとうございます。

今日の大きな議題の一つ目には、平成29年度の新年度予算（教育行政執行方針）でございます。二つ目には、厚岸町立学校適正化配置計画についてでございます。

まず、1点目の平成29年度厚岸町の予算編成について、さらには、それに基づく執行方針について若干私からお話をさせていただきます。予算案につきましては皆さまも御承知のとおり、私が町長になりましてから、4期目の最後の年、7月12日が私の任期満了となるわけでございます。本来ですと骨格予算になるわけでございます。しかしながら、厚岸町は慣例によって年度予算するということになっておりまして、平成29年度の当初予算をこの3月6日から始まる第1回定例会に提案する予定となっております。

私といたしましては、重点的な考え方として、一つ目は厚岸町の経済力を高める事業。二つ目は防災、減災、老朽化対策を強固なものにさせていただきたい。三つ目は今日の人口減少の中で最も大事な課題であります子育て支援対策の強化に努めてまいりたい。そのような中身の予算編成とさせていただいたところでございます。

特に私が常にお話しているとおおり、まちづくりは人づくりであるということで、教育を重点的な予算として考え、それぞれ3課にわたる御意見をいただき、先般、私から予算の内容について申し渡しをさせていただいたところでもあります。

その予算に基づいて、教育長から執行方針が述べられるわけでありまして、その教育執行方針について教育委員の皆さま方と協議をさせていただきたい。それが、本日最も重要な議題となるわけでございます。

どうかこの一年間の厚岸町の教育人づくりに関わる重要な執行方針でございます。忌憚のない御意見をよろしくお願いを申し上げる次第であります。

厚岸町立学校適正配置計画については、後ほど資料に基づいてお話をさせていただきますと思います。また、その他の中で御意見があれば、どうかよろしくお願いをいたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

#### ○司会（総務課長）

ありがとうございました。

本日の会議の進行につきましては、これまでどおり本会議の議長であります、町長に進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### ○議長（町長）

それでは、「(1)平成29年度教育行政執行方針（案）について」を提案させていただき、皆さま方と協議させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局の説明をいただきます。

#### ○事務局（教育委員会管理課長）

「平成29年度教育行政執行方針（案）について」その内容をご説明いたします。

それでは1ページの序章について読み上げさせていただきます。その後、各担当（指

導室長、生涯学習課長、体育振興課長) から要約して説明させていただきます。

### ■ 3 説明・協議事項「(1)平成29年度教育行政執行方針(案)について」

配付資料1により内容説明

#### ○議長(町長)

平成29年度の教育行政執行方針につきましては、酒井教育長が新教育長として誕生してから初めての町議会における、執行方針となるわけであります。

大きくは3項目になっておるわけでありますが、大きい項目に基づいて皆さんの御意見をお聞きかせいただきたいと存じます。

第一の学校教育の充実についてであります。7項目に重点項目として述べられております。御意見を伺いたいと思います。

#### ○田辺委員

基本的に取り組まなければならない項目については、概ね網羅されていると思います。

厚岸においては幸いに大きないじめが無いわけでありますけれど、こういった中では、全国的にマスコミ等でも極めて遺憾な状況が生じているようなこともあります。

常に我が厚岸町の中でも起こりうるんだという意識をもって、子供たちを見守って行くということが必要なんだろうと常頃考えておりました。その辺について学校の教員の目が非常に大事になってくると思っております。

また、学校の方でも積極的に取り組んでいるんですけど、更にこういった目を配備しながら我々教育委員の方も地域全体で見守るといような体制を推進していかなければならないと思っております。

#### ○濱委員

各項目網羅されて凄く良いと思うんですが、気になる点としては、5ページの防災教育について、毎年、子供たちの避難訓練や災害に対する訓練は学校独自でやっていて、町で実施する防災訓練には子供たちの参加がほとんど見られない。そういう現状がここ数年続いている。できればモデル校的な学校一校が防災訓練の時、合同でできるような方法がとれないものか。授業中に災害が発生したと想定して、一般町民と学校とが合同で防災訓練が可能なものかと常々思っていて、町独自で行なう時はどうしても年配者の方のみが避難しているというのが現状となっているので、今年は子供たちと一緒に防災訓練ができるシステムがとれないものかと思っております。

#### ○平良木委員

翔洋高校の件なんです。町内中学校の教育に生かしたり、教職員間の交流・連携を通して入学者を増やすということとなっておりますが、現在は町内の学生だけでは十分な生徒が確保できない状況となっておりますので、例えば、ネイパル厚岸を利用するとか、全道から生徒が集まるように将来に向けて、もう少し厚岸町として提案力を高めるとかそのような運動ができれば良いのではないかと。

例えば、道や教育局は翔洋高校だけを宣伝するという事はできないと思いますので、そういうことを推進するのは厚岸町が担っていかなければならないと思います。

今までであれば、コンクールに出場して新聞に載ったり、カキでござーるのイベントに参加して翔洋高校の名前を売ったり、そのようなことを全道、道東でもいいですし、色々な所に宣伝できるようなことを町として提案して行ければ良いのではと考えました。

#### ○森協委員

道徳教育の充実についてですが、これからの時代とても大事な項目であると思うのですが、これから授業の中で教科として位置づけられるということですので、まだ分らないですが、今後、道徳の位置、学期ごとに点数をつけられていくものになっていくのか、道徳というものはそういうものでは無いと感じていますが、今後、どのように道徳が扱われていくのか考えていかなければならないと思っています。

#### ○議長（町長）

それぞれ御意見承りましたので、その事についてお答えできればということで、まずは、いじめの問題についてどのように考えているのか。

#### ○事務局（指導室長）

今、学校はいじめの取り組みについてかなり重点的に行なっております。

去年から文科省よりこういう指導がありました。各調査をしたときに、ある県では1,000人あたり99件のいじめの認知があり、違う県では1,000人あたり1件しかない。99件ある県はとことんいじめがある県と見るのか、もう一方の1件しかいじめが無い県は本当にあげているのかということで、子供がいじめられていると訴えた場合はきちんと認知してくださいと指導がありました。

厚岸町もいじめの認知というのは、多くて5件とか4件くらいだったんですが、その指導が入ってからは、今はいじめられたと認知をした者は40以上になっています。

その認知をした者については全て面談をして解決をするということで、解決されていないという報告は一つも挙がっていませんので、全て解決されている。いじめというのは解決しても、また何処かで継続していく、何処かで生まれているということなので、今、委員の指摘がありましたように、うちの町はいじめが無いんだという視点に立つんですが、いじめはいつでも起こりうるんだということで各学校を指導している状況であります。

#### ○議長（町長）

これは、執行方針の中では何ページ？

#### ○事務局（指導室長）

4ページです。

### ○議長（町長）

2点目（重点2）の中に書いていますね。  
内容はそのようであります。

それでは、防災教育について。この件について子供だけではなく、町全体として子供も入れて防災教育モデルを作ってやってはどうかという御意見でありますので、防災を担当しています総務課長の方から説明させます。

### ○事務局（総務課長）

厚岸町において全町的な避難訓練におきましては、20年以上にわたって継続して実施してきております。

ここ数年の避難訓練の実施日については、10月15日のコンブ漁の出漁が終わった後の最初の日曜日ということで実施をしてきているところでありまして、以前は平日に行なっていた時もあります。その時には学校の生徒、教職員の参加をいただいて確かに今よりも、参加人数が多かったということもありました。

普段、学校から避難するにあたっては、平常の学校での訓練の中で行なっていたらいい。全体の一斉訓練においては、休日家族がどうやってその避難場所まで避難をするか経路と時間の確認を子供がいる家庭においては、子供さんと一緒にという呼びかけを行なっているところなんですけど、なかなか家族の中で一斉に避難をしてくださるといった傾向がみられていないという部分がありまして、もう一度平日に戻して学校の生徒を入れて避難訓練を考えてみたんですけど、そうすると、今度は、平日なかなか会社勤めをされている方々、または漁師の皆さんがそれに参加くださるかという、これもまた難しいところでありまして、この辺につきましては、今後の課題として受け止めさせていただいて、教育委員会とも連携しながらどのような方法での避難訓練が良いのか考えてまいりたいと思っております。

### ○議長（町長）

教育委員会は、子供の参加についてどのように考えていますか？

### ○事務局（指導室長）

今、学校にお願いしていますのは、防災教育の手引きを前につくりました。これは毎年各学年2時間ずつ勉強して、全部合わせて小学1年生から中学3年生まで18時間の防災教育をしましょうと行なっております。厚岸町に育った子供たちは、この防災教育を受けて厚岸から卒業していくという学校教育を行なっております。

先程、説明がありましたように休日に行なっている防災訓練に連動しているかというとなかなか連動していないということもありますので、実践は防災訓練とか地震や津波があった時にどう対応するか、問われる中身になってきておりますので、今のところ教育の成果が実際の避難訓練に結びついていないという結果として出てきています。ですから避難訓練や実際に災害が起こったときに避難できるか問われる部分になってきますので、学校の方には休みでありますけれど、実践の場面として防災訓練に出るようにしていただきたいと呼びかけていきたいと思っております。

### ○議長（町長）

この問題は、今言ったように机上的な教科書でやるよりも、実践がまず大事なことになるので、各学校によっては、裏山に逃げるとかそれぞれやっていると承っておりますが、これは町とよく連携を取りながら、どういう方法が良いのか御意見がありましたので、再考願ってより効果のある実践を含めた防災教育のあり方を検討する必要がありますね。教育長どう思いますか？

### ○酒井教育長

執行方針の中にも掲げさせていただきましたが、家庭と学校、地域社会が連携して子供の学びであったり安全であったりというのを担保していかなければならない。それは大きな所にあると思います。

例えば日曜日に開催する、これが固定で曜日を動かさないということであれば、じゃあ学校は何ができるのか、子供の安全を守るために何ができるかという発想にたたなければいけないという思いは有ります。

家庭や地域と連携するそういう意味でP T Aに働きかけながら、たとえ日曜日であっても何らかの形で子供たちが実際にその避難を体験する。まわりの人たちがどのように動いているのかを見て学ぶ、そういう機会を提供していくというのも、一つの案として考えられる。学校とP T A、地域社会がもっと連動した形で日曜開催に対応する一つの方法として考えられると思います。

### ○議長（町長）

大きくは、6年前の東日本大震災の大津波地震等を教訓とすれば、実践としてはただ山に逃げるとか、高台に逃げるとか、それから一番大きい問題として、現場の学校教育として、大川小学校これが裁判になりまして、大きな犠牲者、生徒先生含めて40数名出たわけで実際裁判したら負けたということもありますので、高台に逃げる事はもちろんのこと、児童を迎えに来て途中で津波に流されてしまったとか色々な例があるわけですね。そういう面も含めてもっと防災教育のあり方というものを検討すべきことでもありますね。

厚岸もいつ来るかわからないような状況でありますので、この点は再考願ってほしいと思います。

より効果のある防災教育がどうあるべきか、この際検討する時期にきていると、濱委員からお話があったとおりでと思います。

### ○議長（町長）

それでは続いて翔洋高校の件ですが、このことについて何か説明があれば。

### ○事務局（指導室長）

翔洋高校の存続も含めまして、共存させていくことが必要ではないかのご指摘だったと思います。

この件について、酒井教育長就任早々最初に言われましたのは、翔洋高校との連携についての指示がありました。

厚岸町の「人」「もの」「こと」を生かした教育と、うたってきているんですけど、その中で特に翔洋高校との連携を図りながら、翔洋高校の存続というのは町の存続にも関わるくらい大きな問題なんだと言うことで指示をうけまして、今、ハードの部分とソフトの部分教育支援の中でいくと、翔洋高校の活動している様子を是非中学校と連携をしながら、中学校の選択肢の中に翔洋高校もあって、色々な選択肢の中に自分の進路があるんだということも含めて中学校と翔洋高校が連携できないだろうかということでお話がありました。

今日から私と翔洋高校生と各学校に回って授業をやっていくことになっています。翔洋高校の「生カキあげちゃいました」という取り組みが全国的な評価を得たんですけど、その実践を実際に中学校に行って、道徳または総合的な学習時間1時間もらってその発表とその後の受け答えをしながら、商品化にあたるまで色々な体験をしてきた子供たち、それ引き出しながら中学校に自分の進路、生き方、友達との関係というものを学んでいこうということで、今日は太田中学校、明日は真龍中学校と高知中学校、厚岸中学校で土曜授業があるんですけども保護者を交えながら授業をやるということで今の翔洋高校の実践を伝えていく活動をしています。

今、言いました委員の指摘は、それだけではなくて、もっともっと広げていった方がいいんじゃないかということがあります。まず足元のところから広げていきながら、報道も結構入りそうですので、報道等も活用しながら、厚岸翔洋高校の今やっている活躍そういうのも貴重な教育資源としておさえながら連携していきたいと思っております。

## ○議長（町長）

翔洋高校につきまして、若干、私からも御意見を申し上げたいと思います。

なんといいましても魅力ある翔洋高校でなければ生徒も来ない、このことについては、翔洋高校の校長先生にも強くお話をさせていただいているところであります。

生徒数が減少する中で、厚岸町の中学校の卒業生のうち去年の統計であります、51%が釧路へ行ってしまうという実態があります。強制力は無いわけではありますが、やはり地元には高校があるということは、存立に関わる課題でもありますので、できれば、やはり魅力のある翔洋高校として、また評判の良い翔洋高校として地元の中学生がせめて地元に入るように配慮するような、これは保護者の考え方もあるかと思いますが、そのために厚岸町といたしましては、駅からバス通学の補助金も出しております。

それと外国研修も昨年からさせていただいております。と言いますのは、友好都市オーストラリアクラレンス市に今までは中学生だけでしたけれども、それを2名増やしまして翔洋高校の生徒にも行っていただくという色々な行政からの立場からも考えて、より効果のある高等教育とはどうあるべきか考えながらやっておるわけですが、今後とも教育委員会と連携を密にしながら、高校教育の存立に関わる問題としても考えていかなければならない重大な問題と考えております。

それと、我々、厚岸町雇用推進対策連絡会議というものをつくっておまして、翔洋高校に是非、地元としても採用できるようにとの体制で、地元の企業を集めて色々と協議をしておるわけでありましたが、お陰様で就職率は極めて高い、普通の高校と比べてもずっと高いその実績があるわけでありましたが、しかしながらミスマッチと言いましょうか、やはり外へ出たいという高校生の意識もあるようでありまして地元就職口もあるわけでありましたが、なかなか地元に残らないという事もこれは教育だけで無く厚岸町の人口に関わる課題でもありますけれど、そういう点で我々も高校の就職担当の先生にもお話をさせていただいております。

また、高校は小中学校にも言えることではありますが、知力だけが確かに教育で無いことは理解できますが、ただ、私の承知している段階では残念なことに釧路方面の高校よりは現実的に劣る。と言いますのは役場職員の採用にあたりまして是非地元高校があるので、受けていただきたいと強く訴えているとことではありますが、残念なことに役場を受ける者も居ない。その就職担当の先生に聞けば、受験して落ちた場合を考えれば、次の就職について我々は責任を負えないと情けない、私からすると挑戦をするという教育ができていない。そういう事も訴えながら学校教育のあり方、高等教育のあり方。やはりなんと言っても体力も「知」「徳」「体」大変大事なことでありますが、やはり知力というものをもっと高めていただければという気がします。それも一つの魅力でなかろうかと考えておりますので、行政の立場からも強くそういうことも今後とも訴えていきたいと考えております。

#### ○議長（町長）

それでは続いて道徳教育について。

#### ○事務局（指導室長）

まず1点目の点数化ということになるんでしょうかとのことですが、教科化になることで何が今までと違うかと言うと、まず一つは教科書ができるということです。今まで道徳というのは教科書はありませんでした、副読本というものがあって、各学校が選んだりして使った副読本がありましたけれど、教科書という物はありませんでした。今回教科化となることで選定教科書が出てきます。それが1点目。

教科化になりますと、今お話がありました必ず指導と評価というものが一体となりますので評価があります。ただこれにつきましては点数はなじまないだろうと意見があつて記述式ということになります。記述式でどういう道徳的な判断、心情、実践意欲とか記述してその良さを書いていくということになりますので、教科では無く特別の教科と言いつつ変わりました。普通なら教科道徳なんですけれど、教科についても含めて普通の教科と違うという意味での教育の位置づけになっております。

授業は、今までのテレビを見たり副読本を読んでではなく、考える道徳、議論する道徳に大きく変わってきます。色々な物を読んで感想を述べる道徳ではなくて、一つの価値観についてみんなで考えていく、それを議論していく、そういうルートに大きく変わっていきます。

今もその準備で各学校進んでおります。そういうことで懸念されてる点数での評価



がなじまないという前提で考えられているということで、これは平成30年度からの実施となります。

#### ○議長（町長）

第一の学校教育の充実について御意見をいただいたわけではありますが、文章表現についてはどうでしょうか。

#### ○濱委員

表現なんですけれど、7ページの重点4「家庭・学校・地域が連携した教育の推進」の項目、読んだ限りでは「家庭・学校・地域と※行政若しくは（教育委員会）が連携した教育の推進」の方が良いのではと思います。今問題となっているのは、学校と教育委員会現場がそれぞれ分かれていて連携していないというような認識を持たれているのが問題として、教育委員制度改革が行なわれたということを考えれば、この項目を「家庭・学校・教育委員会・地域・・・」にした方が良いのか。教育委員会を行政と言った方が良いのか分らないんですけれど、そのような行政サイドも一緒になって物事を考えて行きますと言うような項目にした方が良いと思いますので、検討してみてもいかがでしょうか。

#### ○事務局（指導室長）

文面の中身はおっしゃる通りですので、そのように表題を改めることは可能だと思います。

#### ○議長（町長）

その他ございませんか。

#### ○平良木委員

「第一 学校教育の充実について」の序文なんですけど、厚岸町の教育大綱にもありますし、5ページ重点の3「健康・安全に関する教育の推進」ということで、防災、安全、健康、給食アレルギーなどなっていますので、この序文の中で、防災とか、安全とか、給食とかも含めて「安全安心」という文言を入れた方がわかりやすい様な気がしました。必要で無いなら結構ですけどそう思いました。

#### 【第一 学校教育の充実序文の記載】

学校教育におきましては、学習指導要領の趣旨を十分に踏まえるとともに、学校・家庭・地域・関係機関が連携し、【●●●●←ここに**安心・安全な教育環境の下**、を追加】「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく育み、児童生徒が自らの夢や希望を実現する学校づくりを基本方針として、次の7つの重点に取り組んでまいります。

### ○事務局（指導室長）

中身もそのような構成となっておりますので、入れることは可能となっております。

### ○濱委員

9ページ、4点目読書のところで、「情報館と密接に連携を図り、学校図書館活動の活性化を進めてまいります。」と言う文章があるんですけど、学校図書館活動の活性化というのは何を言っているか分からない、前回も議題となった学校図書館司書の問題もありますので、学校図書館活動の役割の検証や学校図書館はどのような役割なのか具体的に検証するというを文書にした方が良いのでは、活性化という文言だったら具体的に何をやるのか見えない。学校図書館はどういう役割なんだと、きちんと検証するというをはっきり言った方が良いのではと思うのでその辺検討してみてください。

### ○事務局（指導室長）

御意見いただいた、学校図書館の役割をきちんと検証するんだと言うことで検討したい。

### ○議長（町長）

私から予算の時も言っていたんだけど、太田小学校、太田中学校のタブレットは他の学校にも波及することだから。本来は検証の結果、効果によっては今年あたり他の学校にも予算化すべきことなんが、今でも改めて検証するという文言になっている。今だにこのような状況では困る。

### ○事務局（指導室長）

昨日から検証が始まっていて、私と課長と係長で授業を見てきてこれからも検証が続きます。すぐ検証してすぐ結果とならないものですから、ずっと重ねて行きながら今年度は残り2ヶ月なんですけど3回公開授業をやっていただいて、それをみんなで見に行っておアンケートを取りながら検証し、次の年度、平成29年度9月あたりまで検証期間としてその結果を出して、次年度に反映させていく流れになっておりますので、検証の方は既に進んでいる状況にあります。

### ○議長（町長）

他の学校の予算化もあるので、良いものは太田だけで無くやるべきことですよ。

### ○森脇委員

タブレットの事なんですけど、検証とは全然違うことなんですけれども、町内の先生方の立場になって、他の地区の先生にタブレットがあったらどう思いますかとか、10人位なんですけれども何人か知り合いの先生方に聞いてみました。

先生方はそれがあったら素晴らしいですよと皆さんお話しされてまして、どのように素晴らしいのかと聞いてみたら、ザックリ言うと自分たちの仕事もスムーズに楽

になる。子供たちにも色々な可能性がある。まだこれから色々と考えていかなければならないものだけれど、あったら素晴らしいと思いますと言っていました。私が聞いたのは白糠の先生や釧路市内の先生限られた地区なんですけれど、そういう意見は伺ってました。

#### ○事務局（教育委員会管理課長）

今、白糠のお話が出たんですけど、タブレットを導入しているのは厚岸町が初めてであります。

たまたま、先日管内の管理課長会議があった時に、そのICT教育のお話も出まして、こちらからも提案したんですけど、他の町村はまだ導入していなく、厚岸町が注目されているところであります。

昨日、授業を見に行っただんですけど、本当にわかりやすいというか、タブレットを使って子供が持って大人も実験をしたんですけど、絵を大きい画面に写して子供たちが実際に使ってやっていました。見てて自分も良いものだと感じましたし、そういう意味では導入を進めたいという気持ちもありますし、お金も関わるのでしっかりと検証し、導入して間違いないと確証を得て進めて行きたいと考えています。

#### ○議長（町長）

これまで私がお話してきましたとおり、太田小学校、太田中学校にモデル的に入れたんですけど、更に予算要求があった時に効果がどうなのか、本当に入れる事によってより良い教育ができるのか、まずその検証をしてから他の学校にも導入しようという考えでありますから、今回の検証と言うことで、今進めているところなんです。

私としては、なぜもっと早くできないんだと言っているんです。

#### ○濱委員

その部分は、文章的には28年度に検証して、引き続き29年度も更に検証を重ねてやっていくような文章にして、28年度も検証しているし足りない部分は29年度も再度検証を深めるというような文言にして、28年度から検証を進めてますよと言った形の文章にもっていくと良いんじゃないでしょうか。

#### ○議長（町長）

その他、何かございませんか。

（意見なし）

#### ○議長（町長）

それでは、「学校教育の充実について」は、文章も含めて訂正の御意見がありました、よろしいですか。

続いて、11ページになります。「第二 社会教育の推進について」であります、この中で何か御意見あればと思います。

(意見なし)

### ○議長（町長）

それでは、意見無いようでございますので、大きい2の「社会教育の推進について」は、このとおりとさせていただきます。

続いて、16ページになります。「第三 スポーツの振興について」であります、いかがでしょうか。

私はこれからスポーツ、文化、芸能等を含めた厚岸町における振興は極めて重要だと考えております。特にスポーツにつきましては、大変喜ばしいニュースは昨年沢山ありました。北海高校の厚岸出身の2人の子が大きく貢献し、野球で全国大会（甲子園）に出場できた。それから、スケートにおいては、佐藤綾乃さんが大活躍しているとのことで、次に続く青少年健全育成の意味もありまして、進めて行くべきだと考えております。

そこで會田総務課長、優良青少年だけで無く新たな表彰を考えているということで説明願います。

### ○事務局（総務課長）

町長からの指示がありまして、他の市町村でもあるんですけど「特別表彰」、その中でどういう種類かという「荣誉賞」「荣誉をたたえて」という種類の中で、スポーツ、文化、芸術で秀でた成績、または評価を得た人を町内在住の方々だけではなく、厚岸町にゆかりのある方、または団体これらを含めて町長の決定のもとに表彰を行なう制度を新年度から町長が創設をしたいとのことで、条例ではなくあくまでも委員会の中での答申、諮問という形ではなく町長の権限のもとに表彰を行なう制度を新年度から行なうとのことで、オリンピックでの入賞であるとか、当然メダル獲得であるとか、文化芸術面でいけば色々なコンクールで表彰された方々へ表彰状さらには、副賞等を贈呈できるような制度を創っているところで、最終的に町長にみていただいた中で、4月1日から施行したいと考えているところであります。

来年、予想されるのがピョンチャン（韓国）でオリンピックが開催されますけれども、それに佐藤綾乃さんが厚岸町出身ということで、今、ワールドカップ等で活躍されているということで、もし、出場しその中で入賞された時には、この表彰制度の中で表彰をするということになると思っております。

### ○議長（町長）

今あります優良青少年表彰なんですが、これは限定されるんですね。なぜ限定されるかと言いますと、厚岸町に住所が現在なければならぬ、厚岸出身でも厚岸町に住所が無ければ、表彰されないということになるんですね。ですからもっと幅広く例を出しましたけれど、そういう方が出たとするならば、やはり新たな表彰条例をつくらなければならない。

### ○事務局（総務課長）

今、表彰条例となると功労者、善行者ということで表彰していますので、これら善行者、功労者につきましては町内在住で無くても表彰はできる制度にはなっていますが、これとはまた一線を画した中で表彰制度を持ちたいということでもあります。

### ○議長（町長）

そういうことで、スポーツ、文化、芸能の振興策を色々と考えて行かなければならない。厚岸の名を誇れるものを是非。森脇さんがやっている厚岸町吹奏楽団も金賞でしかたか？そういう方が現れてきておりますので、もっともっと荷担していかなければならないと思います。

「第三 スポーツの振興について」はよろしいですか。

（意見なし）

### ○事務局（教育委員会管理課長）

先程ご指摘いたところはほぼ換えたり意見反映したりできると思います。

一点、濱委員からありました7ページの「家庭・学校・地域」に教育行政ということを入れた方が良いのではとの部分について、全体的にここは「家庭・学校・地域・関係機関」という言い方をしています。ここは関係機関と言うことでよろしいでしょうか。全体が家庭・地域・関係機関と大きな括りになって、教育行政や他の機関と言う位置づけで修正するという形でよろしいでしょうか。

（異議なし）

### ○議長（町長）

それではそういうことでご理解いただきたいと思います。

### ○濱委員

一点よろしいですか。

全体とおしてなんですけれど、18ページ「教育委員会といたしましては、新たな教育委員会制度によりその役割を担ってまいります・・・」ということなんですけれど、教育委員会の大きな執行方針を言う中で、折角、新しい教育委員会制度の中で始めた議事録などの情報公開ということをもっと議会で言うことによって、一般の町民の方に理解してもらおうとか、教育委員会がどういう中身の会議をやっているということを広める形になるかと思うので、宣伝ではないけれど、教育委員会はこのようなことをやっている会だと分ってもらうために、文章や言葉として言ってもらった方が良いのではないかと思うので、その辺検討お願いします。

### ○議長（町長）

今の濱委員のお話を聞いて、あらためて私からもお話しさせていただきたいと思い

ますが、町長の手紙というのは皆さん御承知かと思います。その中で、町政執行方針は全般的に私がやります。教育の部分についてももちろんお話しします。

しかし、その中でも私の場合は予算の関係だけお話しします。そうすると知らない人は、今の濱委員と同じように、町長なぜ教育についてもっとお話ししないのか、反面、熱心じゃ無いというような捉え方で町長の手紙に来まして、教育委員会の主管でこういうわけですと返事を出したんですが、誤解している方もおるわけで、その点しっかり教育委員会の仕事はこういうものだ、教育行政についてはこうであるということをしつかりと町民に知らしめるということは大事な事ですね。

その他、ございませんか。

(意見なし)

### ○議長（町長）

それでは、「平成29年度教育行政執行方針（案）」については、訂正するところは訂正いたしまして、原案とさせていただきたいと思います。

あとは教育長が申し上げるわけですから、教育長が全般的に見て自分で感じるころがありましたら、それに基づいて執行方針としてさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたしたいと思います。

### ○議長（町長）

続きまして「(2) 厚岸町学校適正配置計画策定について」ご提案をさせていただきます。説明をお願いいたします。

### ○事務局（教育委員会管理課長）

#### ■ 3 説明・協議事項「(2) 厚岸町学校適正配置計画策定について」

配付資料2により内容説明

### ○議長（町長）

ただいまの説明に関しまして、お尋ねまたは御意見があればお願いいたします。

### ○議長（町長）

ご説明ありましたとおり厚岸町のみならず全国的な傾向にあります。少子高齢化から人口減少という現状にあるわけであり。1月末で9,700人程となっております。それと地域的に厚岸大橋を中心として湖南・湖北地区を比べますと。人口が約倍違います。その結果、厚岸小学校の新1年生は15人。厚岸町としても大規模と言われてます真龍小学校はようやく二間口。厚岸小学校においては一間口。空き教室が多くなってしまふそのような状況にあります。

そういうことで厚岸町としては、厚岸町未来創生会議を設置をし、今日の人口減少、少子高齢化において抑制をどうしたら良いか色々な施策をもって考えているところであります。

冒頭に申し上げたとおり、子育て支援これを強力な力をもって対応していかないと  
ならない時代であると思っております。

そこで私が考えましたのは、小学校の学校給食を無料化しようと、新年度で予算化  
したいと思って管理課長と色々と相談したんですけれど、お金が大変であります。

3, 100万円位かかります。現在の厚岸町の予算規模ではなかなか大変だという気  
はいたしております。これは将来やりたいと思っております。これも一つの子育て対  
策になるかと思えます。

それから保育料の関係であります。今、第2子からは20%を減額をいたしてお  
ります。来年度からは第1子から2割減額しようとする施策を講じていきたい。色々と  
やっておりますが、それにおきましても財政も厳しい折りで、一昨年は小学校までの  
医療費を無料化いたしました。そういう色々な手を打ちながら、産み育てやすい環境  
を作っていこうと思っております。

しかしながら、それをやったからといって、現実には子供が増えるのかというとなか  
なか難しい現状もあります。

何か御意見ございませんか。

(意見なし)

#### ○議長（町長）

意見が無いようでございますので、本日考えておりました議題については、全て終  
了させていただきたいと思えます。

折角の機会であります。その他で何かございませんか。

(意見なし)

#### ○議長（町長）

意見が無いようでございますので、本日の総合教育会議におきましては、以上をも  
って終了とさせていただきたいと思えます。ご苦労様でした。